

実践紹介集（令和5年度）

浜田市まちづくり総合交付金事業（課題解決特別事業）

地区	No.	事業名	実施団体名
浜田	1	輝きチーム結成事業 5年目(令和元年度採択事業)	みはし地域まちづくりネットワーク
	2	美川夏まつり	美川地区まちづくりネットワーク
	3	浜田市立第四中学校閉校記念ビデオレター作成事業	
金城	4	賑わいの創出・伝統行事動画記録継承事業	今福まちづくり委員会
	5	地域の存続、活動の継続 身近な人・家族・仲間で創る関係人口	小国まちづくり委員会
弥栄	6	関係人口創出事業	弥栄のみらい創造会議
三隅	7	岡見マップ作成事業 2年目(令和4年度採択事業)	岡見地区まちづくり推進委員会
	8	第11回石州和紙 灯ろうまつり ～58 災から 40 年 その思いを後世に～	三保地区まちづくり推進委員会
	9	かっぱランド(河川空間)の利活用推進事業	黒沢まちづくり委員会

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはし地域まちづくりネットワーク

〔令和元年度採択分〕

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

輝きチーム結成事業 5年目

事業費(予算額)： 1,000,000 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,000,000 円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

■目的：みはしネットの各部会の実働部隊の層がまだまだ薄いので、協力者を増やしていく事。また、近隣住民同士が集まる機会がなくコミュニティが脆弱であること。

■見込まれる成果：みはしネットの各部会の事業への協力者が増え、その事業を通じて、地域住民同士のネットワークが強化され、新たなコミュニティが生まれてくる。

D

事業の概要

みはし地域住民が過半の5人が集まって、みはし地域が住み良い地域なることに繋がる活動を年に複数回行う場合に、輝きチームとしてみはしネットに登録していただく。登録していただいた輝きチームには、活動費の支援や、活動簿の場の優先提供をみはしネットが行う。

当事業は、平成30年度に「社会参画型サロン事業」として実施した事業を拡充したものであり、現在15団体が登録。

今年度は、新たに4団体の登録「竹迫4町内草刈り隊」、「竹迫5町内清掃会」、「テゴネット防災」、「3F(スリーエフ)」があり、地域の新たなコミュニティが生まれつつあります。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○	
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

今年度は、新たに4団体のチームが発足し、少しずつではありますが、地域コミュニティの再生に繋がっていったと思います。各33町内毎に「輝きチーム」の発足を目指しましたが、達することができませんでした。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

登録チームが増えると、いずれ、複数のチームによるコラボ企画や、各部会への提案事業も生まれてくると想定される。

新たにできたコミュニティが継続できる環境づくりが重要になってきます。

やまにのぼろう会



竹迫5町内清掃会



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：美川地区まちづくりネットワーク

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

美川夏まつり

事業費（予算額）： 480,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 400,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 美川地域最大イベントの美川夏まつりと浜田市立第四中学校閉校記念事業を同時開催とし、より多くの四中OBの方々に帰省して頂き、同日四中開放日においては懐かしく、また美川夏まつりを大いに盛り上げてもらい思い出に残るイベントにする。

D

事業の概要

- 閉校記念横断幕設置（2か所）
- 浜田四中生徒・教師によるポップコンサートの開催・記念品贈呈
- 閉校記念うちわの製作（2000枚）・美川夏まつり会場にて配布
- 美川夏まつり会場にて四中在校生紹介
- 美川夏まつり期間中に、四中を開放し内覧を行う。
- 閉校記念手ぬぐいの作成（300枚+300枚=600枚）

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

										○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

- 参加者の皆様に大変喜んで頂き、また例年になく盛り上がりで満足している。
- 美川地域の住民、卒業生、来場者等の繋がりをより一層深めることができた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 美川夏まつりの集客を続けて行けるようスタッフ一同盛り上げていきたい。
- 今回連携した各種団体以外にも、協働体制を広げていき、今後も協働して事業を続けていく。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：美川地区まちづくりネットワーク

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

浜田市立第四中学校閉校記念ビデオレター作成事業

事業費（予算額）：396,000円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：396,000円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- 令和5年度浜田市立第四中学校閉校記念事業として、四中の歴史に残るものを映像化し半永久的に残し美川まちづくりセンターにて所有（DVD4枚程度）保管し、各種イベント等に貸し出し浜田四中をいつまでも心に残していく。

D

事業の概要

- 令和5年8月（課題解決特別交付金決定後）ビデオレター制作打合せ・着手
- 令和5年10月 卒業生等からの思い出やメッセージ等収録
- 令和6年3月 四中閉校記念事業『閉校記念の集い』にてビデオレター放映
- 令和6年4月以降
美川まちづくりセンターにてDVD（4枚程度）を保管し、美川地区の各イベント等に貸出、歴史ある思い出をいつまでも残していく。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

- 『閉校記念の集い』にて放映し参列者が大変喜んでいました。
- 高齢者や若者まで多くの方の協力を得て、実体験に基づいた映像コンテンツを作成することにより、地域の一体感を醸成することができた。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 美川まちづくりセンターに置き数多くの人たちが借りて視聴してもらえる様に企画する。



事業報告書

申請団体名：今福まちづくり委員会

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

賑わいの創出・伝統行事動画記録継承事業

事業費（予算額）： 492,210円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 492,210円）

P・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

今福地区では、「賑わいの創出」を目標に、多くのサークルや教室が活動しているが、発表の機会である文化祭や各種イベント時の動画撮影・編集に苦慮している。現在、幻の広浜鉄道今福線の遺構が、小中学生のふるさと学習に大いに活用され、今福の観光資源として脚光を浴びているが、これらのガイドや土木遺産としての記録、また、盆踊り等の伝統行事（口説き・太鼓・踊り）も、後世に引継ぐためにも、これらの動画記録も残しておく必要がある。併せて「もやい市」を核とした「農福連携」の活動記録の常時撮影編集により、高齢者の“生きがいづくり”の方策・検証に利用出来る。

D

・事業の概要

今福文化祭や各種イベント行事及びもやい市の開催日に、行事会場で、主にまちづくり委員やセンター職員が、活動内容を動画撮影し、センター主事が編集し、各サークルへのデータ提供、まちづくり活動記録の保存・検証に使用する。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○					
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

今福文化祭や幻の広浜鉄道今福線ウォーキング大会のビデオ撮影は行ったが、編集作業に着手出来ていない。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

令和6年4月からは、サークル活動や伝統行事・文化祭・高齢者の農福連携等の活動を収録、編集して、地域住民の継承に役立ててもらう。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：小国まちづくり委員会

〔令和5年度採択分〕

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名 地域の存続、活動の継続 身近な人・家族・仲間で作る関係人口

事業費（予算額）：441,198円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：200,000円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
高齢化・担い手不足の解決策として、お盆に帰省する地元関係者に盆行事で行われる企画に役割を持って参加してもらう。地区民と一緒に運営し企画の中で地域の魅力や実態を感じてもらうことで、帰省時には地元スタッフとして、帰宅時には小国を応援する関係人口として小国に関わってもらう。

D 事業の概要
盆踊りの実施にあたり地区民と帰省者が一緒になって運営を行った。帰省者が地区民の一人として事業へ参加することで、帰省者・地域一体となった盆行事が実施できた。
バザーなどの企画で役割をもって参加し、小国米の米粉を使ったパンケーキや小国米の試食で帰省者には改めて農産物の魅力を感じてもらい、地域の一員であることの自覚と、帰宅した際には小国を応援する人材として、小国の農産物や取組みを情報発信する宣伝スタッフとしての役割を期待している。
また、5年後に開封を予定しているタイムカプセルに、参加した各家庭で自分や家族の思いを書いた手紙や写真を入れた。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

										○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

最終目的は、小国地域で行われる運動会や文化祭などに、頻りに役割を持って参加してもらえる地元出身者を確保することであるため、これからも継続した取り組みが必要。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

盆行事以外の地域イベントに企画段階から関わってもらえるよう、出身者の家族（小国地区民）がこの取組みをさらに理解し、協力を促す必要がある。参加者には参加して良かったと思える工夫が見える形で提示できるようにする。



事業報告書 (課題解決特別事業)

申請団体名：弥栄のみらい創造会議

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

関係人口創出事業等

事業費（予算額）：1,931,012円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：1,931,012円）

P 事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果
弥栄町内での安定した雇用及び関係人口創出のための基礎知識等を習得し、また地域外の協力者（関係人口）及び地域内の理解者・協力を獲得することで、プラスのループが回る。

D ・事業の概要

- 「や会議」の開催...専門分野の知識・経験のある方を講師として招聘して基調講演を行いその後、地元から数名を加えてパネルディスカッションを行う。
- テント等の整備...学校等の要望やまちづくりセンター事業等、浜田市ふるさと体験村のイベント等の需要に応じて貸出。
- 交流拠点施設である「浜田市ふるさと体験村」、杵束及び安城まちづくりセンター事業実施のために取り組む環境整備を地域内外の住民により行う。
- クラシックコンサートを弥栄町内で開催し、町民が文化に触れる機会を創出するとともに、オーケストラメンバー（60人程度）に町内で唯一、大人数の宿泊の受け入れが可能なるさと体験村に宿泊してもらい、弥栄の魅力を満喫することで関係人口になってもらう。

C 課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

					○				
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

・上記評価の理由

- 「や会議」に招聘した講師の講演内容が参加者には刺激的で、従業員確保策等、すぐにでも実践できる方策があり、可能性を感じられた。
- 環境整備（クリーンデイ）が計画どおりに実施できた。

A 事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- 「や会議」や環境整備に多くの地域住民に参加してもらえるような周知方法の検討。
- 短期雇用として確保した従業員等の弥栄町内での住まい、移動手段、インターネット環境などの整備が必要。
- テント等の利用促進のため、学校等への周知を図る。



や会議



クリーンデイ

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名： 三保地区まちづくり推進委員会

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

第11回石州和紙 灯ろうまつり ～58 災から40年 その想いを後世に～

事業費（予算額）： 455,080円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 393,480円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

昭和58年豪雨災害から40年、昭和18年の水害から80年の節目の年となる。より多くの住民に意識を高めてもらい、災害から命を守るための契機を創出したい。三隅地域全体に関わることであり、他の地区へも取り組みを拡大したい。

D

事業の概要

- ・例年開催している灯ろうまつりを、58年豪雨災害から40年の節目の記念の催しとして拡大開催することで、三保地区から三隅地域へ展開した。
- ・灯ろうの作成を三保地区住民と三隅地域の保育園（所）、小学校、各まちづくりセンター、まちづくり委員会などに依頼。
- ・多くの施設が集まる三隅中央公園は、普段災害に関心の薄い方も利用しているため、この場所で事業を実施することで、住民の意識全体の底上げを目指した。
- ・多くの方に関心をもっていただくことで、事業の担い手を増やし、事業の継続性を高める。
- ・石州和紙のみを材料とした灯ろうを作成することで、和紙の特徴を知る機会とした。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

上記評価の理由

三隅中央公園を会場にしたことで多くの方が来場し、災害に対する意識の底上げが図られた。半面、会場が遠くなったため、三保地区の住民の参加が減少した。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

58年豪雨災害の記憶と記録を後世に伝えるため、小学校、中学校への働きかけをするとともに、三隅町全域の取り組みを継続する。三保地区の住民が参加しやすい方法等を検討する。

記念講演会



参加者のみなさん



灯ろう点灯



事業報告書
(課題解決特別事業)

申請団体名：黒沢まちづくり委員会

[令和5年度採択分]

令和5年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

かっぱランド（河川空間）の利活用推進事業

事業費（予算額）： 595,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

かっぱランドに仮設トイレを常時設置することで、かっぱランドでのレジャー利用の利便性が高まり、かっぱランドの利活用が図られる。

D

事業の概要

○仮設トイレの設置

仮設の水洗式トイレを黒沢まちづくりセンターのグラウンドに1基設置し、常時利用できるようにした。また、グラウンド入口に案内看板を設置し、トイレがあることが伝わるようにした。

○かっぱランド夏祭りでの活用

このトイレとは別に仮設トイレを1基レンタルし、男女で分けて利用できるように配慮した。

○かっぱランド1日お試しキャンプ場の開催

かっぱランド夏祭り終了後にグラウンドをキャンプ場として開放し、トイレの有無を含めたキャンプ場としての利便性や実用性をモニタリングした。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

					○				
--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

・上記評価の理由

トイレがあることによって、予定していた以外の新たな事業（デイキャンプ）も実施でき、エリア活用の可能性が広がった。

利用者数が把握できず、主催事業以外でどの程度トイレが活用されたかが判断できない。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

キャンプなどの利用が増えるような周知を強化する。

トイレの利用状況が把握できる仕掛けを考える。（カウンターの設置等）



仮設トイレ設置状況



かっぱランド夏祭り



かっぱランド1日お試しキャンプ場